

# INPEX

## 会社説明会

株式会社INPEX  
(証券コード：1605)

エネルギーに  
新しい風

2023年9月1日

# 注意事項

当プレゼンテーションは、当社の計画と見通しを反映した、将来予想に関する記述に該当する情報を含んでおります。かかる将来予想に関する情報は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた当社の仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性およびその他の要因が内在しております。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する情報に明示的または黙示的に示される当社の将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらす可能性があります。かかるリスク、不確実性およびその他の要因には下記のものが含まれますが、これらに限られるものではありません。

- 原油および天然ガスの価格変動及び需要の変化
- 為替レートの変動
- 探鉱・開発・生産に関連するコストまたはその他の支出の変化

当プレゼンテーションに掲載される情報（将来予想に関する情報を含む）を、その掲載日後において、更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

# 本日のご説明内容

**Part I 当社概要**

**Part II 当社事業**

エネルギーに  
新しい風



Part I

**当社概要**

エネルギーに  
新しい風





## 経営理念

---

私たちは、  
エネルギーの開発・生産・供給を  
持続可能な形で実現することを通じて  
より豊かな社会づくりに貢献します。

## ひと目で分かるINPEX

日本の年間  
エネルギー消費量の



に相当する生産量

石油・天然ガス  
&  
クリーンエネルギー

**5**

つのコアエリア

日本  
東南アジア  
オーストラリア  
アブダビ  
ヨーロッパ

**4,610億円**

純利益

(2022年12月期実績)

**1兆616億円**

探鉱前営業  
キャッシュフロー

(2022年12月期実績)

**2050年** CO2排出絶対量  
ネットゼロへ挑戦

**80年** を超える歴史と経験

多様な人材構成

**約4割**

海外も含めた当社グループ全体の外国人従業員比率  
(2022年12月末時点)

## 2030年頃に目指す姿

## ネットゼロ5分野

商業化の実現と  
確固たる地位の確立

## 石油・天然ガス分野

安定供給を継続・拡大  
CCUS等によりクリーン化を進めながら  
収益基盤として強化・拡充

## 2022年

- 東証プライム市場へ移行（1605）
- INPEX Vision@2022 公表
- 当期純利益が過去最高となる4,610億円に到達

## 2021年

- 「INPEX」へ社名変更
- 当期純利益が過去最高の2,230億円を達成

## 2008年

- 経営統合を通じ「国際石油開発帝石」発足

## 2006年

- 「国際石油開発帝石ホールディングス」設立
- 東証1部上場（1605）

## 1966年

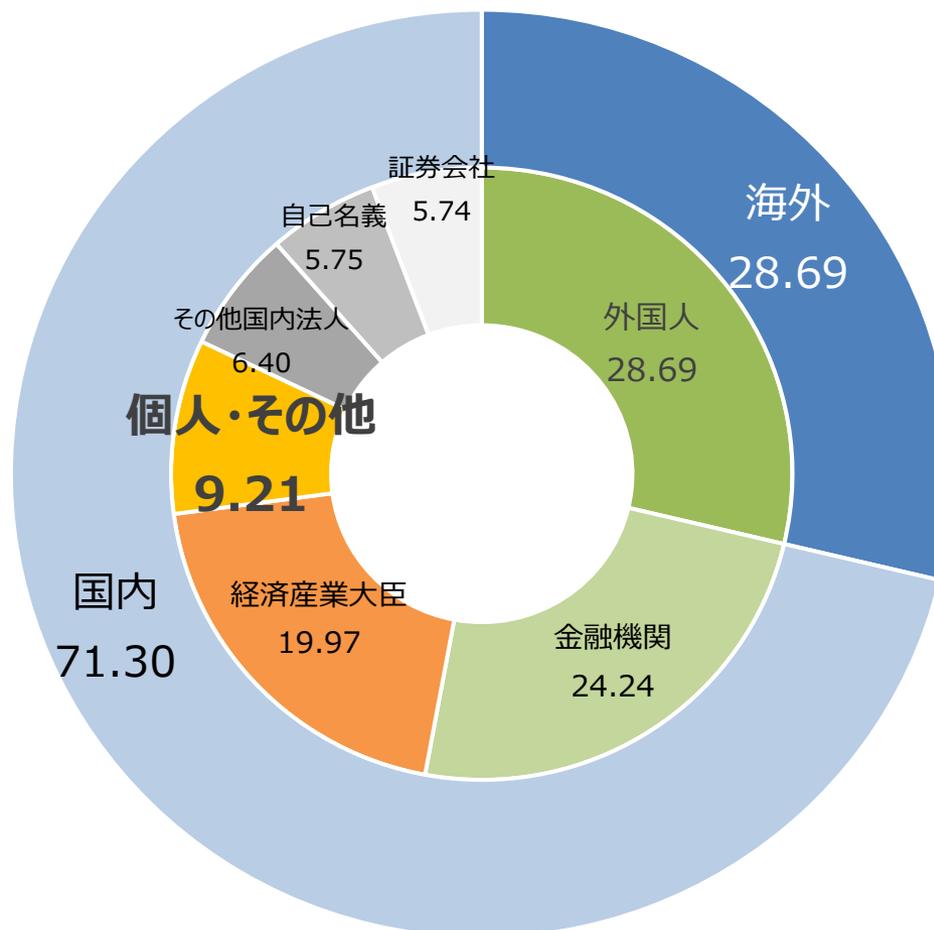
- 北スマトラ海洋石油資源開発（国際石油開発の前身）設立

## 1941年

- 帝国石油設立

## 株主構成

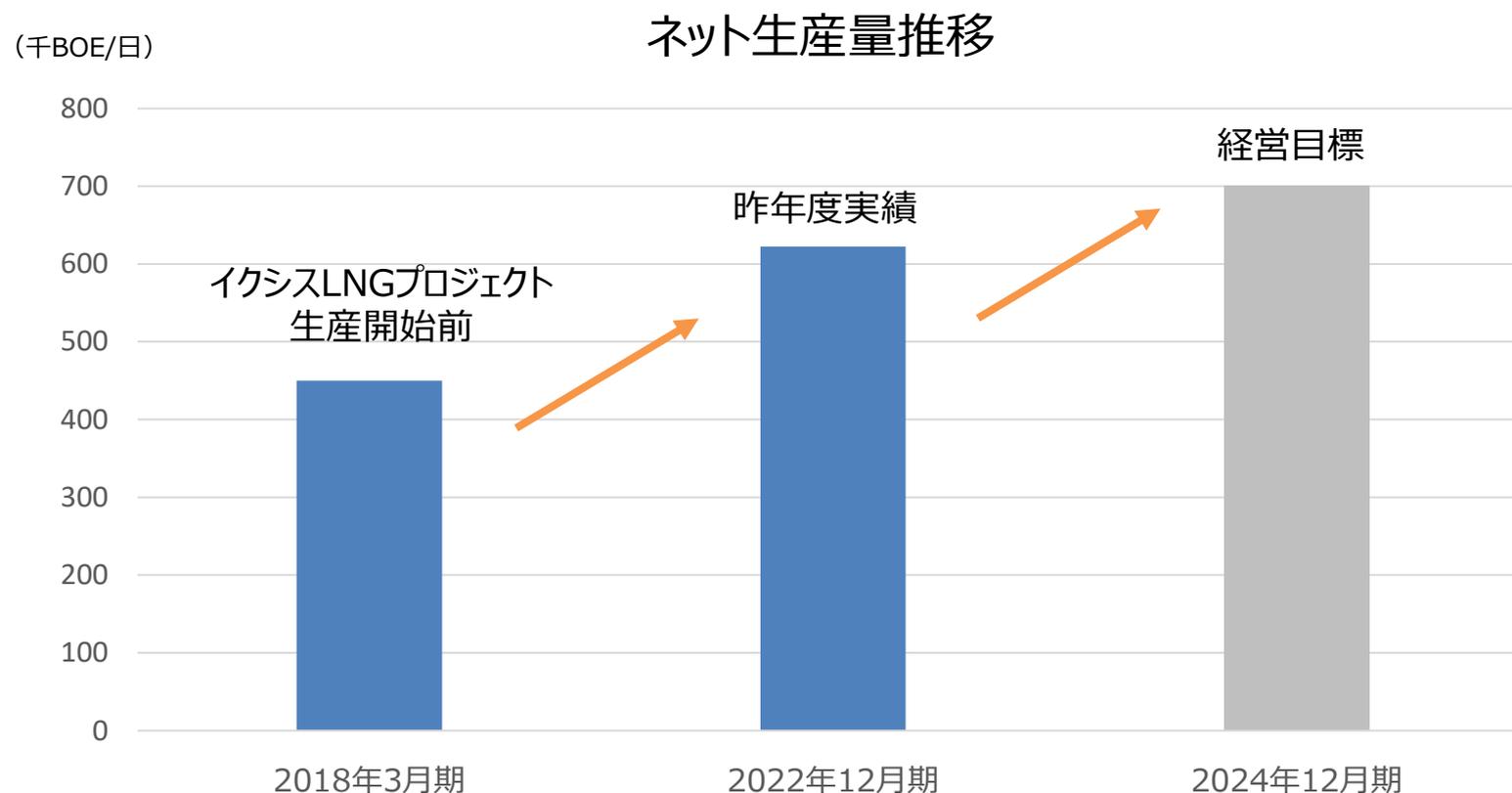
- 個人株主さまの比率は本年6月末時点で約 1 割（約25万人）であり、増加傾向にあります。
- 当社のその事業の性質から、経済産業大臣が約 2 割の株式を保有していることが大きな特徴です。



(単位：%)

## 生産規模とエネルギーの安定供給

- 日本のエネルギー消費量（原油換算約575万BOE\*/日。2021年時点）の約1割程度に相当する量の石油・天然ガスを日々生産・供給しており、日本政府のエネルギー自主開発比率目標の中核としての役割を担っています。



\*BOE: Barrel of oil equivalent (原油換算バレル)

## 業績の推移

- 当社の事業基盤の強化・拡大と共に、油価・為替の影響もあり、業績は好調です。
- 2023年度通期は売上高が約2兆円、親会社株主に帰属する純利益は約3,200億円を見込んでいます。

## 売上高

(億円)  
過去最高

23,246

20,310

12,443

2021年12月期 2022年12月期 2023年12月期  
(8月9日予想)

## 経常利益

(億円)  
過去最高

14,419

11,510

6,576

2021年12月期 2022年12月期 2023年12月期  
(8月9日予想)

親会社株主に帰属する  
純利益

(億円)  
二期連続  
過去最高を更新

4,610

3,200

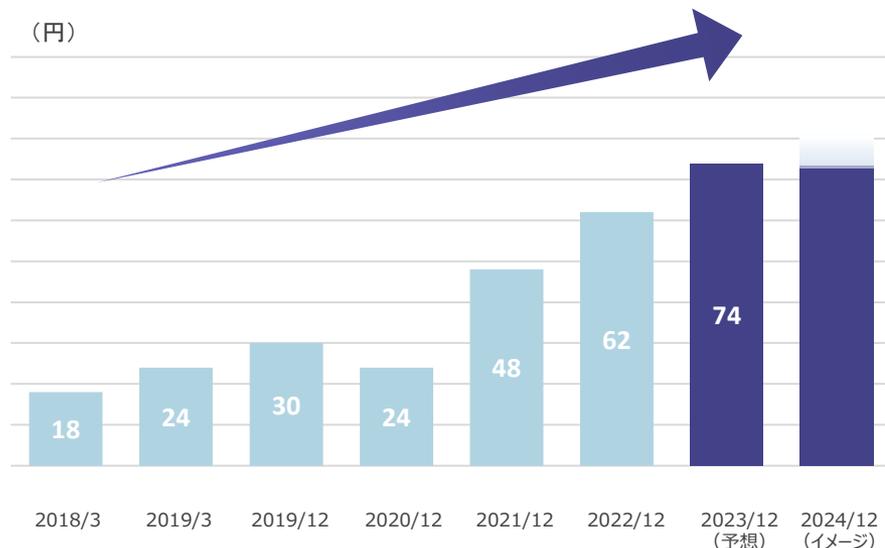
2,230

2021年12月期 2022年12月期 2023年12月期  
(8月9日予想)

## 株主還元の強化

- 今期は総額2,000億円規模の還元を実施し、総還元性向は60%超、うち配当性向は30%程度となる見通しです。
  - ① 今期の1株当たり年間配当金を前期の62円から12円増配となる74円（中間37円、期末37円）に増額
  - ② 来期の配当金は、今期を下回らない金額とするよう最大限努力する
  - ③ 今期、総額1,000億円の自己株式取得を行う
  - ④ 自己株式については、前期取得1,200億円分と合わせて計2,200億円分を消却する予定

### 配当金の引き上げ



### 自己株式の取得・消却

2023/12	1,000億円	実施・消却	
2022/12	1,200億円	消却	約 8,000万株
2021/12	700億円	消却済	約 7,600万株

## 株主優待について

- 毎年12月31日時点で当社株式400株以上を1年以上継続保有する株主さまに対して、翌年3月下旬頃に当社オリジナルデザインのQUOカードをお送りいたします。
- また、個人投資家の皆様に向けては、IR説明会や施設見学会を実施しております。

## QUOカード



## 施設見学会の様子

LNGタンクのご見学  
写真撮影INPEX MUSEUMの  
ご見学

**Part II**

**当社事業**

エネルギーに  
新しい風



The INPEX logo is displayed in a bold, dark blue, italicized sans-serif font.

# 長期戦略と中期経営計画

INPEX Vision @2022

エネルギーに  
新しい風

## INPEXの2つの事業

- 祖業である「石油・天然ガス分野」に加えて、再生可能エネルギー等による「ネットゼロ5分野」の両輪で事業を展開しています。

### 石油・天然ガス分野



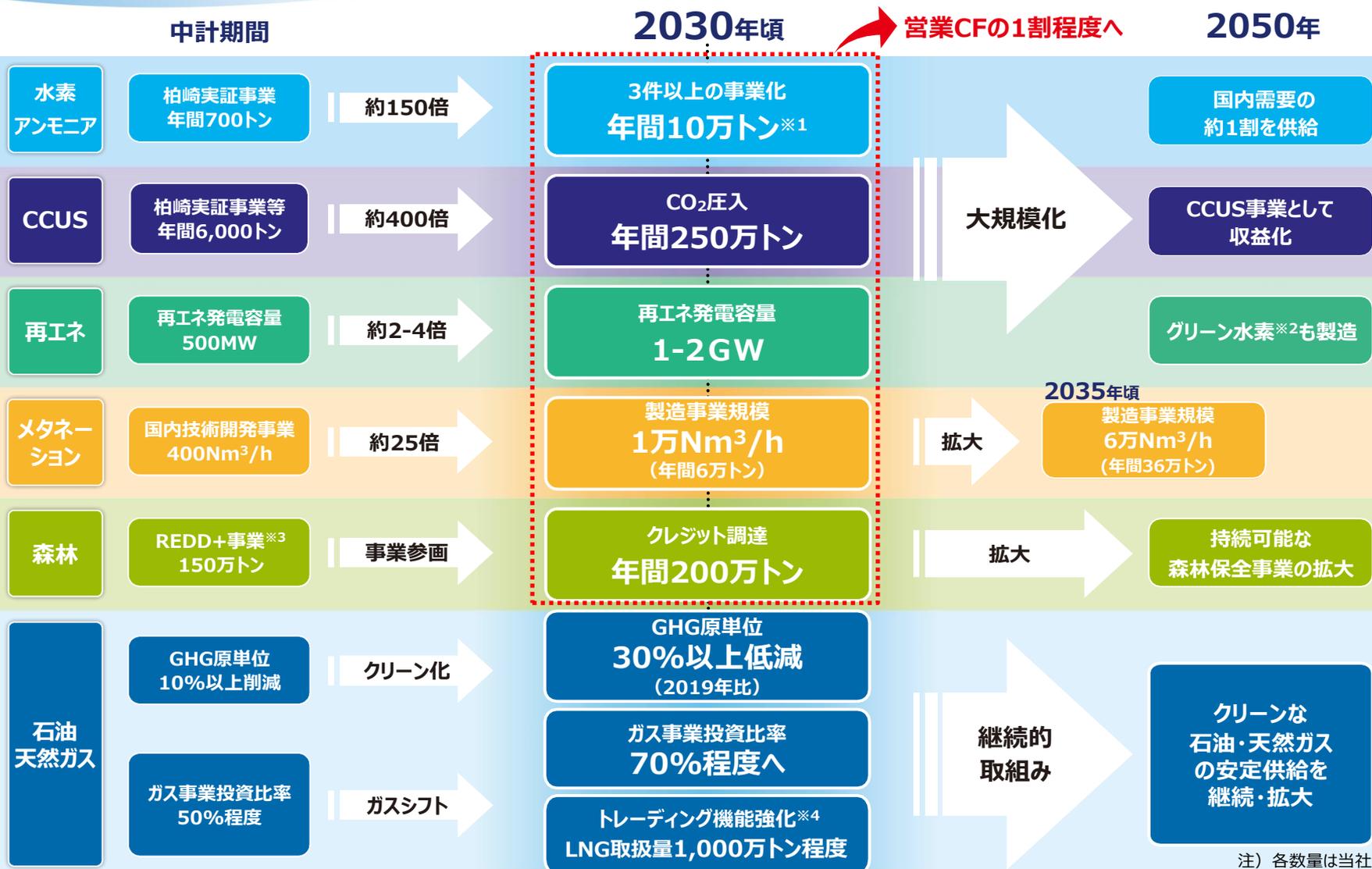
イクス沖合生産・処理施設 (CPF\*)

\*Central Processing Facility

### ネットゼロ5分野



# 2030年頃に目指す姿



注) 各数量は当社権益分相当

※1：アンモニアは水素換算

※2：風力等の再生可能エネルギーを利用し、水を電気分解することで製造される水素

※4：中下流事業等を含む

※3：Reducing Emissions from Deforestation and forest Degradation Plus

；森林減少・劣化の抑制によるCO<sub>2</sub>排出削減に加え、森林管理を通じた劣化防止及び植林等による炭素ストックの積極的増加も含むCOP16の「カンクン合意」（2010年）で定める概念

## 上流事業（Upstream Business）

当社を含む上流会社が取り組む事業

1. 参入



2. 探す



3. 掘る



4. 生産



5. 運ぶ



## 下流事業（Downstream Business）

石油元売・電力・ガス会社などが取り組む事業

1. 輸入/備蓄

2. 精製/加工  
発電/気化

3. 輸送  
送電/送ガス

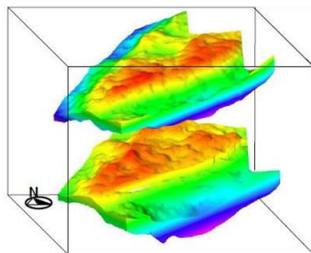
4. 販売

## 石油・天然ガス分野

資源の探査



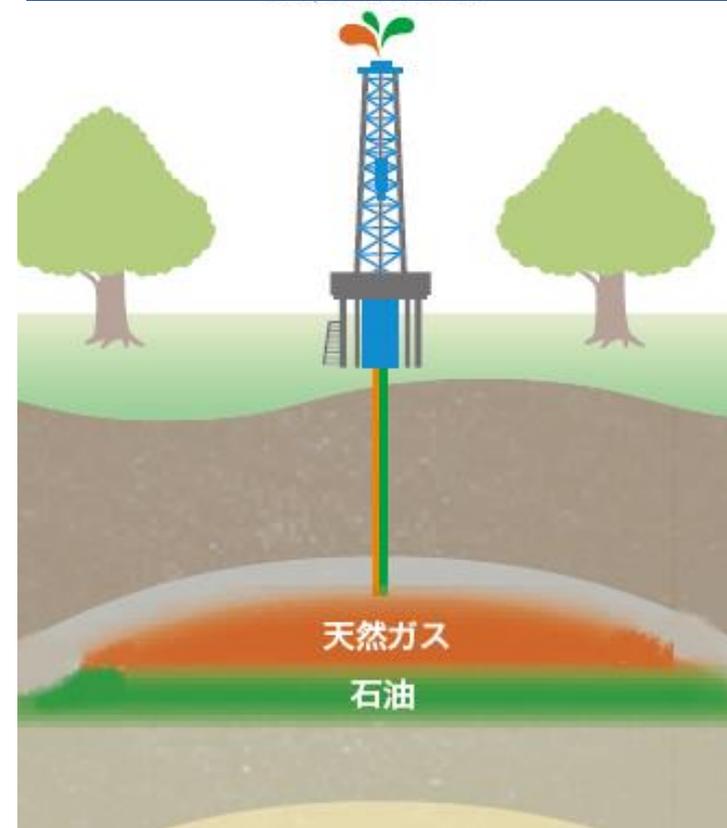
貯留層の評価



井戸の掘削機



原油・天然ガス田のイメージ



生産装置の海底面への設置作業



# 主な石油・天然ガス分野のプロジェクト

## 【コアエリア】欧州

ノルウェープロジェクト



## 【コアエリア】日本

国内天然ガス事業



## 【コアエリア】アブダビ

アブダビ海上油田

アブダビ陸上鉱区



## 【コアエリア】東南アジア

アバディLNGプロジェクト



## 【コアエリア】オーストラリア

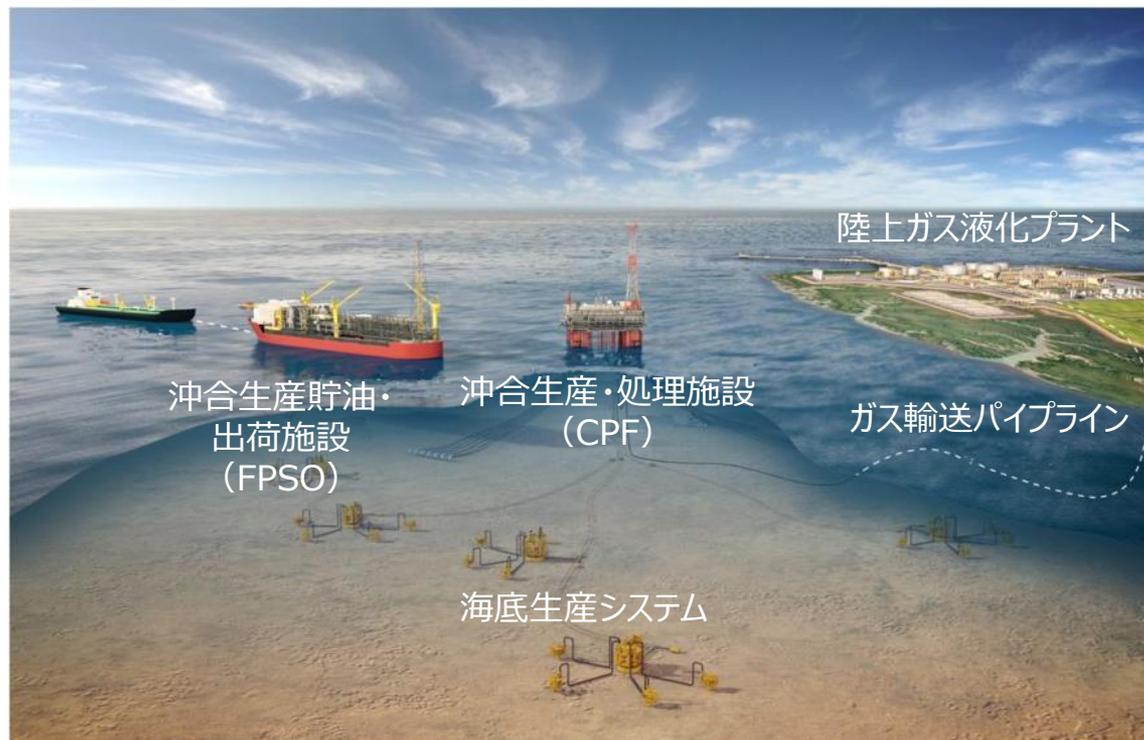
イクシスLNGプロジェクト



操作中

最終投資決定前

## 事例紹介/イクシスLNGプロジェクト（オーストラリア）



イクシスCPF



イクシスFPSO

## 中流事業（ガスパイプライン）への取組み

- 当社では、国内における天然ガス輸送のためのパイプライン網の整備にも取り組んできました。
- 約1,500kmにも及ぶ天然ガスパイプラインを24時間体制で運用・保守・管理しています。



当社天然ガスパイプライン



パイプライン監視システム

# ネットゼロ5分野

- 当社は、ネットゼロカーボンを理想から現実に変えていきます。

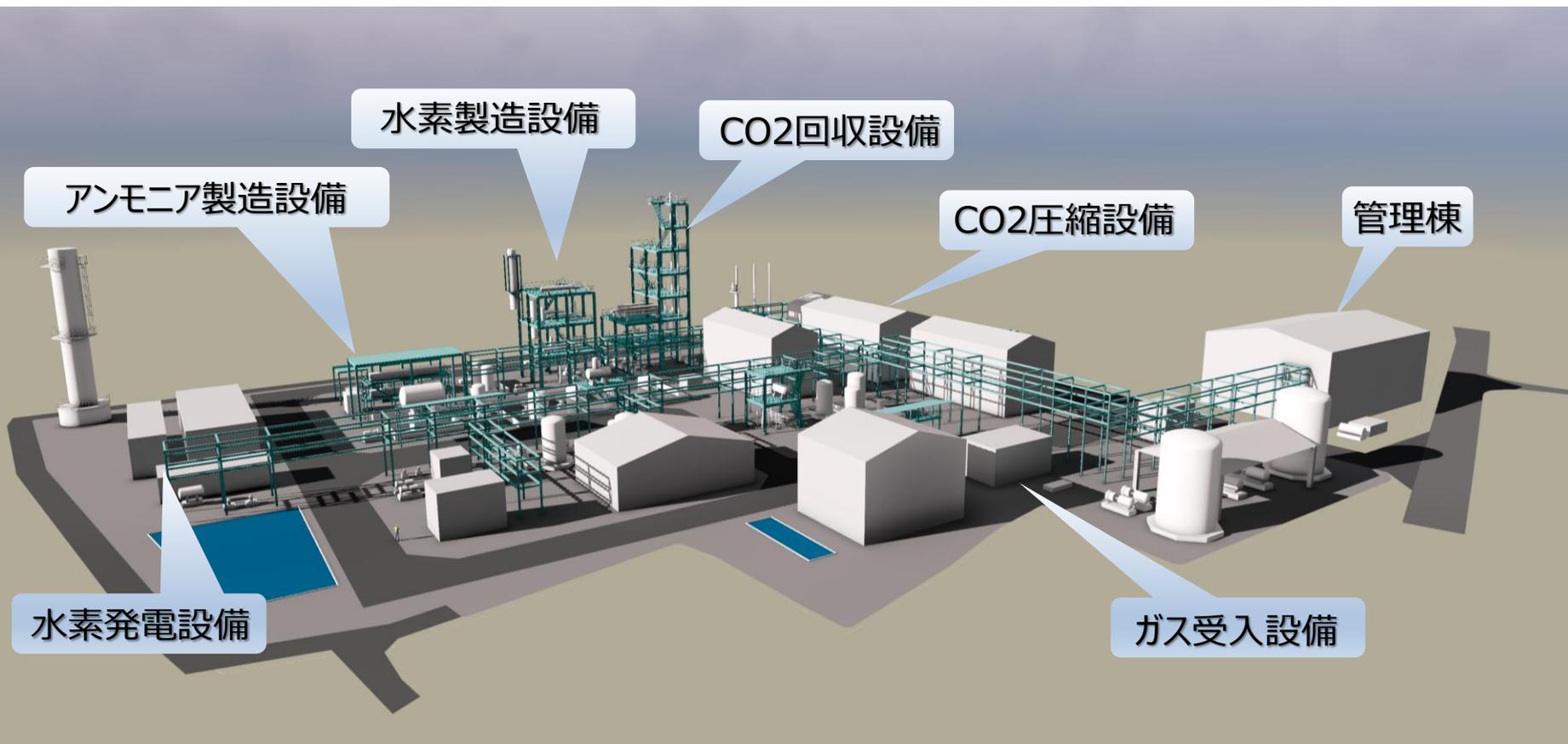
**CCS/CCUS\***  
カーボンニュートラルLNG

**水素**  
アンモニア



\*CCS: Carbon dioxide Capture and Storage (CO<sub>2</sub>回収・貯留)

\*CCUS: Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage (CO<sub>2</sub>回収・有効利用・貯留)



新潟県柏崎市でのブルー水素・アンモニア製造・利用一貫実証試験



モーレイースト洋上風力発電所



ムアララボ地熱発電事業

# ESG（環境・社会・ガバナンス）への取組み

## ■ 主要ESGインデックスへの組入れ状況ならびに社外評価

➢ 主要なESG評価機関より高い評価を獲得、国内外のESG投資インデックスの構成銘柄に選定

FTSE 4Good Developed Index  
FTSE 4Good Japan Index



FTSE4Good

FTSE Blossom Japan Index  
FTSE Blossom Japan Sector Index



FTSE Blossom Japan

MSCI ESG Leaders Indexes



THE INCLUSION OF [ISSUER ENTITY NAME] IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF [ISSUER ENTITY NAME] BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

MSCIジャパンESGセレクトリーダーズ指数

2023 CONSTITUENT MSCIジャパンESGセレクトリーダーズ指数

S&P/JPX カーボンエフィシエント指数



CDP2022 「気候変動」スコア：A-



「S&P Global Sustainability Awards2023」で「Yearbook Members」に選定

INPEX Corporation  
Energy, O&G Oil & Gas Upstream & Integrated  
Sustainability Yearbook Member  
S&P Global ESG Score 2022

68 / 100

As of February 7, 2023.  
\*Sector and Score are industry specific and reflect criterion scoring criteria. Learn more at [spglobal.com/sg/yearbook](https://spglobal.com/sg/yearbook)  
S&P Global Sustainable1

環境省「ESGファイナンス・アワード・ジャパン」で環境サステナブル企業部門の特別賞を受賞



## ■ 従業員への就労支援

- 2018-2020年度分の取組みに対する4度目の次世代認定マーク（愛称：くるみん）を取得しました。
- 経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人（大規模法人部門）」（ホワイト500）に5年連続で認定されました。



■ 「今後の事業展開」、そして「長期戦略と中期経営計画」で表明したとおり、当社は事業を通じてSDGsの目指すサステナビリティ課題の解決に貢献すべく、ESGへの取組みを推進しています。



ご清聴ありがとうございました。



<https://www.inpex.co.jp>

当社ウェブサイトには様々な情報を掲載しております。  
ぜひご覧ください。



日本のエネルギー消費量の約1割を、世界各地で生産。

**INPEX**